



写真1 第2調査区 葺石検出状況(北から)

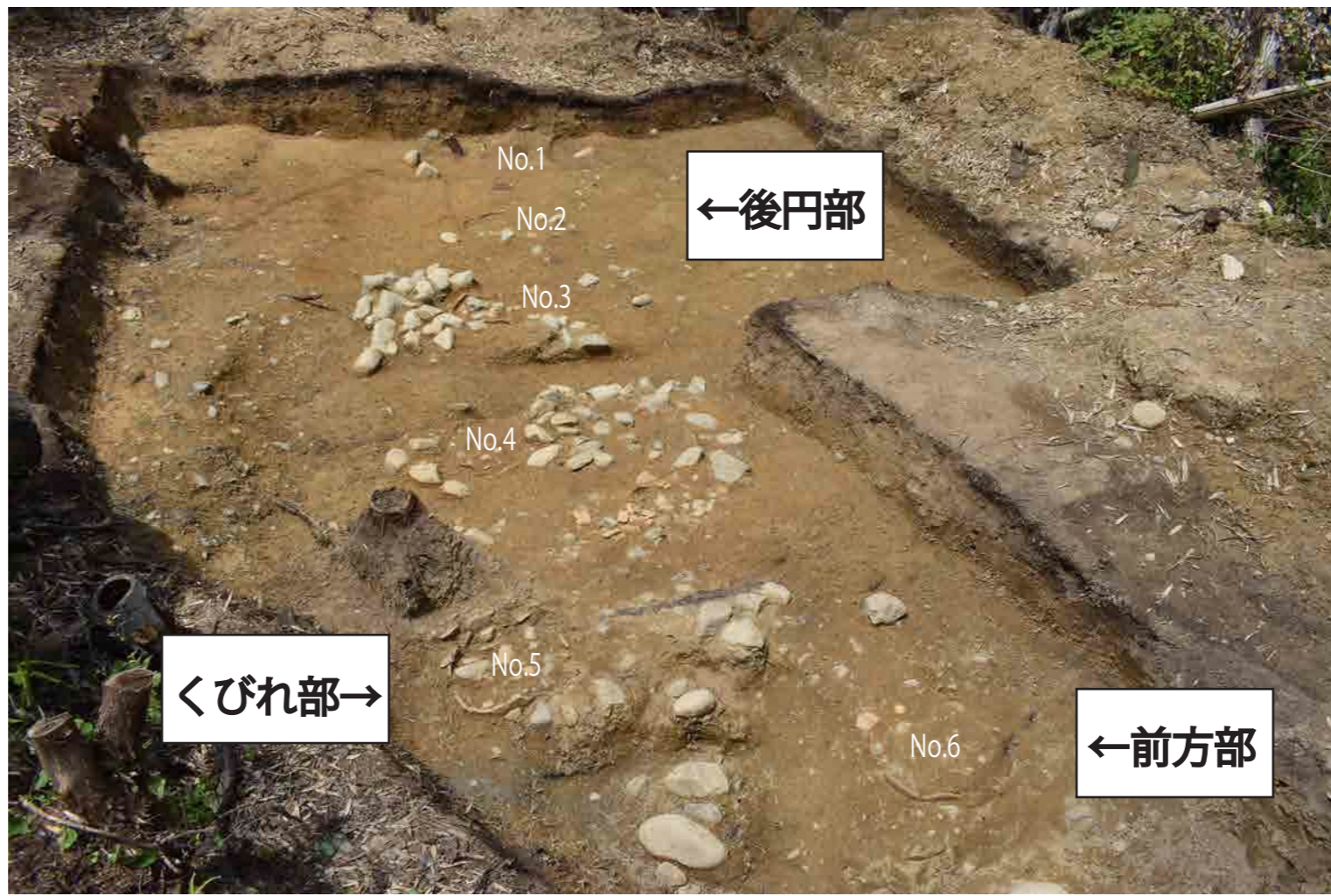


写真3 第4調査区 埴輪列(南東から)



写真4 第6調査区 埴輪棺(北東から)



写真2 第3調査区 斜面葺石(西から)

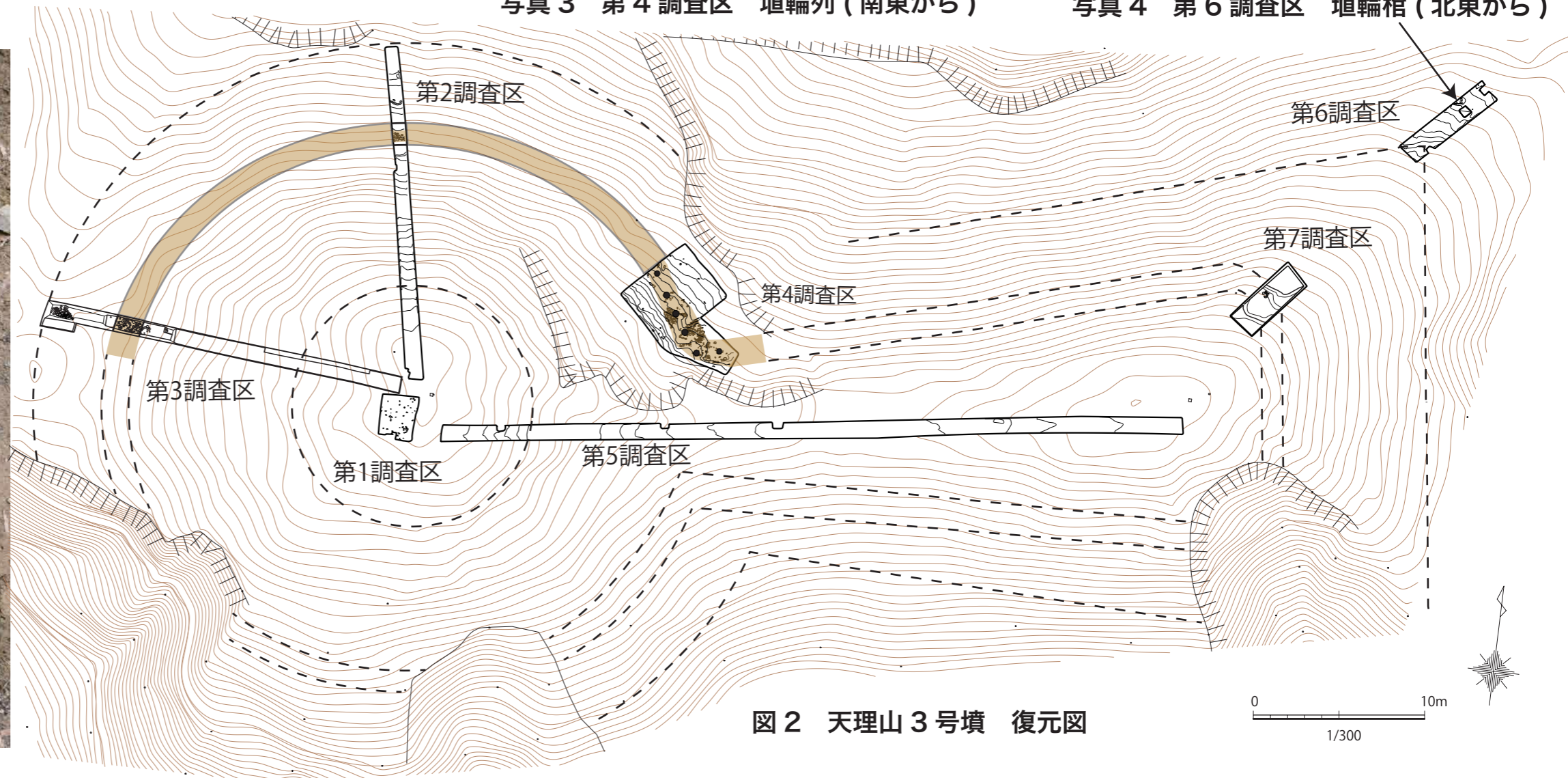


図2 天理山3号墳 復元図

0 10m
1/300

・後円部西側（第3調査区）

後円部下段斜面、平坦面および葺石を検出しました。下段斜面長は約4mで、地山を削り出したのち、葺石を施しています。斜面裾付近の葺石の上に円筒埴輪の破片がまとまって出土しており、周辺に埴輪列が存在する可能性が考えられます。平坦面では第2調査区と同様に葺石を検出しました。

・くびれ部（第4調査区）

墳丘斜面裾付近では基底石、平坦面では埴輪列を検出しました。基底石は長辺約30cmの石材を横向きに配置しています。平坦面からは6本の埴輪を検出しました。後円部側に4本（No.1～4）、後円部と前方部の境に1本（No.5）、前方部側に1本（No.6）の埴輪を検出しています。円筒埴輪は直径約35cmで、0.8～1mの間隔で設置されています。また、くびれ部周辺からは朝顔形埴輪の破片が出土しており、後円部と前方部の境には朝顔形埴輪を配置していたと考えられます。



写真5 第4調査区 埴輪列 (No.3) (北東から)

・前方部北側（第6調査区）

調査区全面で地山を検出しました。地山は調査区南側から西側へ緩やかに屈曲しており、前方部の裾と考えられます。また調査区の北西からは、円筒埴輪が横倒しになった状態で出土しました。埴輪は底部まで遺存していること、他の調査区から出土した埴輪とは特徴が異なることなどから、埴輪棺である可能性があります。

調査のまとめ

調査の結果、天理山3号墳は全長81m、後円部直径42m、最大高7.6mで、地山を削り出して造られた前方後円墳であることが分かりました。外表施設には葺石や埴輪列を持つ古墳であることが明らかになりました。また、平坦面にも直径15cmの石材を用いた葺石を配置する特徴が見られました。古墳の時期は出土埴輪から古墳時代前期末頃（西暦400年頃）と考えられます。

京田辺市内では、古墳時代前期後半から中期にかけて多くの古墳が築造されます。その中でも天理山3号墳は、飯岡車塚古墳（全長87m）に次ぎ、市内で2番目の大きさであることが分かりました。今後、天理山古墳群全体の位置付けも含め、さらに詳細な調査を進めていく必要があります。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様、地元の皆様、ご指導・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

天理山3号墳の発掘調査 現地公開資料
 編集・発行 京田辺市市民部文化・スポーツ振興課
 〒610-0393 京都府京田辺市田辺80
 TEL 0774-64-1300 FAX 0774-64-1305

天理山3号墳の発掘調査 現地公開資料

はじめに

天理山古墳群は、国指定名勝庭園をもつ酬恩庵一休寺の裏山に所在する古墳群です。天理山古墳群は昭和36～44(1961～1969)年に行われた分布調査の際に、古墳時代中期から後期の4基の円墳で構成される古墳群として埋蔵文化財包蔵地に登録されました。

今回、宅地造成計画に伴い令和3年4月から京田辺市が試掘調査を実施しました。4基の古墳のうち、1号墳・3号墳・4号墳は測量図から前方後円墳の可能性が考えられました。そのため今回の調査では、古墳の墳形と規模を明らかにすることを目的に試掘調査を実施しました。その結果、3号墳は古墳時代前期末頃に造られた前方後円墳であることが分かりました。

調査成果

・後円部北側（第2調査区）

墳丘斜面および平坦面を検出しました。平坦面の幅は約1.5mです。平坦面からは直径約15cmの石材を用いた葺石を検出しました。

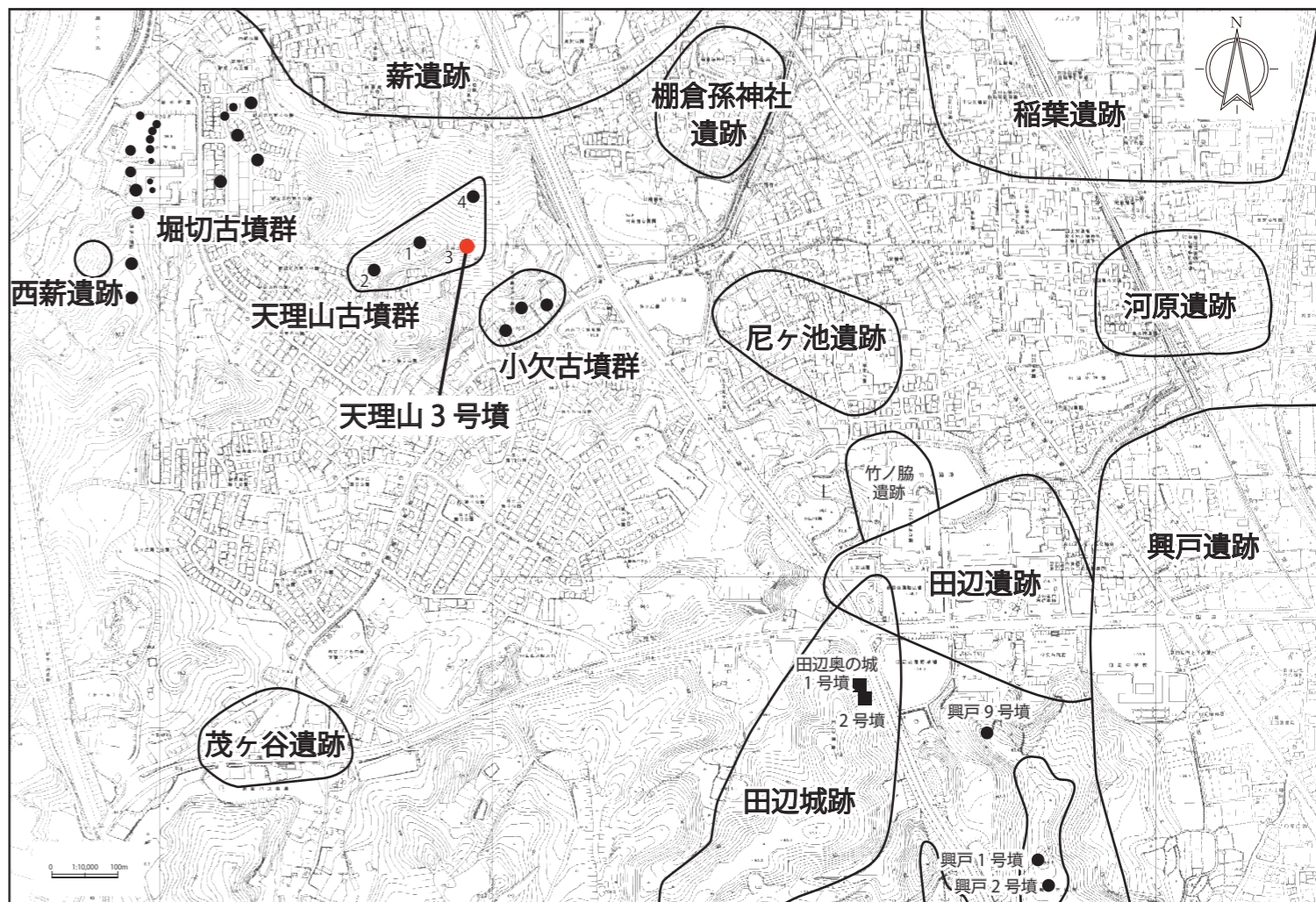


図1 周辺の遺跡 (1:10,000)